

## 但馬沿岸部の流れ藻に付随する魚類の季節的变化を調べる

足立 龍星・杞山 元康・富永 つゆか  
(兵庫県立香住高等学校 課題研究・流れ藻)

### はじめに

兵庫県日本海沿岸部は山陰海岸ジオパークにも認定されており、水中では、多数のホンダワラ科藻類が繁茂し、広大なガラモ場を形成している。沿岸部ではその藻類が切れて海面を漂う流れ藻が多数みられる。

本調査では小型実習船「しりうす」から、流れ藻を採取し、それらに付随する魚類の、水温や季節による変遷を明確にすることを目的とした。



### 方法

船上で行う作業：船上から流れ藻を捜索し、流れ藻を見つけた後、直径75センチのタモ網を用いて採取する。同時に採取地点の緯度経度、水温、水深を野帳に記録する。藻を濯ぎ、中の生物を出す。その後魚種ごとに計数する。

陸上で行う作業：陸上では、ミルソーやシャーレに採取した魚種を入れ、棘上数、軟条数、体型の比率を用いて検索図鑑で同定する。その後調査地点ごとにデータをまとめる。

### 調査地点

調査地点は竹野沖から余部沖の水深40～160mの地点で39個の流れ藻を採取し、藻の採取地点の緯度経度・水深・水温を記録し、藻にナンバリングを行った。

### 結果と考察

5月から11月の7ヶ月間の調査で計461個体、14種の魚類が採取された。出現した魚類と時期の関係を以下に示した。5月には、メバル類が流れ藻に付随しているが8月には採取されなかった。モジャコは5月後半のみの採取となった。6月、7月はメジナが多く見られたが、8月には見られなくなった。また、7月から11月の長期間にわたりアミメハギが多く採取された。8月から11月にかけてニジギンボが見られた。9月、10月には少数ながらそれぞれハナオコゼとヨウジウオが見られた。イシダイは7月、9月に見られたが、それ以外の月には見られなかった。5月は最も多くの魚種が見られ、次いで8月、9月という結果になった。6月、11月が最も採取された魚種が少なかった。

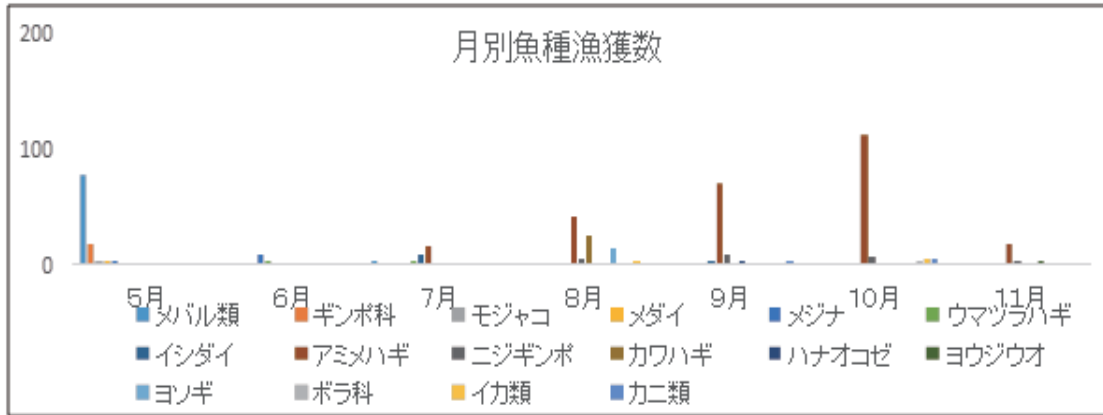


図1 月別魚種採取数

流れ藻には、小型甲殻類や魚類を初めとした多数の生物が付随しており、生育場所や摂餌場所として使用していた。季節が変わると共に、魚類層も変化し様々な魚類の仔稚魚が流れ藻に付随していた。流れ藻は、多くの生物資源を育む重要な場所になっていた。今回の調査で得た結果を基にモジヤコやメダイといった水産主要種も但馬沿岸部に見られることが分かり、今後は調査を続けると共に利用法なども探っていきたい。